

# はじめに

20世紀後半、日本は欧米諸国を追いかける形で経済発展を遂げてきました。

社会制度においても同様で、年金・医療・介護などの仕組みを整備するにあたっては、高齢化が進みつつあるヨーロッパ諸国を参考にし、その様々な取り組みをモデルにしてきました。

しかし21世紀に入り、日本人の平均寿命は今や世界一となりました。加えて長寿化と少子化の結果高齢化のスピードも世界最速で、2030年には人口の3人に1人が65歳以上となります。

人類の悲願であった長寿を世界に先駆けて達成し、人生90年時代をむかえた日本のお手本はもうどこにもありません。私たち日本人は世界のモデルとなるべき長寿の国を、どのように作り上げていこうとしているのでしょうか。

長寿の恩恵をすべての世代が受けることができるよう、誰にとっても豊かで実りある高齢社会実現のためには、皆で知恵を出し議論を重ねながら、新たな発想での仕組みや方法を考えていかなければなりません。

そして、その合意点を現実化するためには堅実な努力と、地道な作業が欠かせないことは言うまでもないことです。

まずその第一歩は、目の前にある高齢社会の現状と、その課題を知ることから始まります。

本書は3部で構成されています。

第1部では、日本の高齢者の姿とその暮らしを様々な側面から切り取り、データを基に紹介しています。

第2部では、イギリス・アメリカ・フランスの高齢社会の概要とその課題を紹介しました。これは2年前にILCが刊行した『Global Aging Report』における各国理事長によるレポートを基に、最新のデータと情報を加えた改訂版です。

第3部は、高齢者の医療行動の国際比較です。風邪と腰痛というなじみある疾患に対して、各国の高齢者はどのような対応をとっているのでしょうか、そしてその理由は？

高齢者の健康を支える制度やシステムが、暮らしの中にどのように定着しているのか、それぞれに解説を加えながら興味深いデータを紹介しています。

本書作成に当たっては、公的統計のみならず20年にわたって培われたILC Global Allianceのネットワークによる最新データや情報を駆使して、日本と他国の実態と課題を知り、同時に高齢者の日々の暮らしのイメージが具体的に想起できるよう試みました。

豊かな高齢社会実現を目指す議論の一助としていただければ幸いです。

国際長寿センター (ILC-Japan)